

# 平成27年度北斗市立小・中学校 全国学力・学習状況調査結果報告について

この調査は、文部科学省が幅広く、全国の児童生徒の学力や学習状況等を把握することなどを目的として実施していますが、実施教科が5教科のみであることや学習指導要領の全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童生徒が身に付けるべき学力の特定の一部分であること、学校における教育活動の一側面に過ぎないことに留意することが必要です。この結果だけで、学校や児童・生徒の評価をしないでいただきたいと思ひます。

北斗市教育委員会では、全国学力・学習状況調査の結果を昨年同様大規模校についてのみ公表することといたしました。  
(小・中規模校については、個人が特定されるおそれがあるため、公表いたしません。)

北斗市教育委員会

## 調査の概要

### I 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国の児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るために、調査を行っています。また、各学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てるために行っています。

### II 調査対象

国・公・私立学校の小学校6年生、中学校3年生の原則として全児童生徒を対象としています。

### III 教科に関する調査

○国語A 算数・数学A (主として「知識」に関する問題)

身に付けておかなければ後の学年の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようなになっていることが望ましい知識・技能などを調査します。

○国語B算数・数学B (主として「活用」に関する問題)

知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などにかかわる内容を調査します。

### ○理科

「知識」に関する問題と「活用」に関する問題を一体的に取り上げた内容で調査します。

### IV 生活習慣や学習習慣に関する質問紙調査

### ○児童生徒に対する調査

学習意欲、学習方法、学習環境や生活面に関する調査をします。

### ○学校に対する調査

学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査をします。

### V 下位層について

全国の結果で下位およそ25%と同じ正答数の範囲に属する児童生徒のことをいいます。下位層の割合は、低いほどいいこととなります。

## 小学校

### 教科に関する調査

〈平均正答率〉

	国語A	国語B	算数A	算数B	理科	5教科計
北斗市	72.3	67.7	76.5	44.1	60.6	321.2
全道	68.1	63.0	72.3	42.5	59.3	305.2
全国	70.0	65.4	75.2	45.0	60.8	316.4
全道差	4.2	4.7	4.2	1.6	1.3	16.0
全国差	2.3	2.3	1.3	-0.9	-0.2	4.8

○北斗市では、小・中学校ともに、各教科の平均正答率の合計が全国以上になることを目指しています。小学校では、国語A・B、算数Aで全国を上回っています。算数B、理科については、全国をやや下回っていますが全道を上回っています。5教科の合計で全国を上回っており、概ね、目標を達成しています。

○国語Aにおける「書くこと」、「読むこと」、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」では、全国を上回っています。「話すこと・聞くこと」では、全国よりやや低いことです。

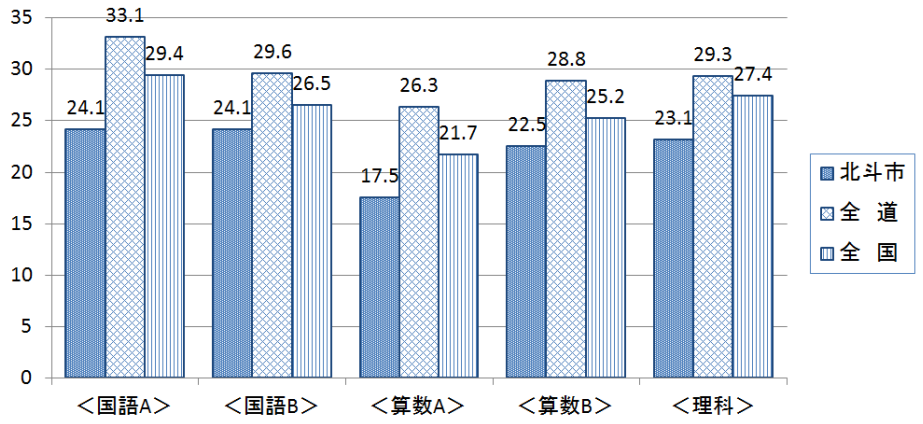
○国語Bでは、全ての領域で全国を上回っています。

○算数Aにおける「数と計算」、「数量関係」が全国を上回っています。「量と測定」、「図形」で全国を下回っています。

○算数Bでは、「数と計算」が全国を上回っていますが、他の領域が全国を下回っています。

○理科では、主として知識に関する問題(A)である「物質」、「エネルギー」が全国を上回っています。主として活用問題(B)である「生命」、「地球」で全国を下回っています。

下位層の割合

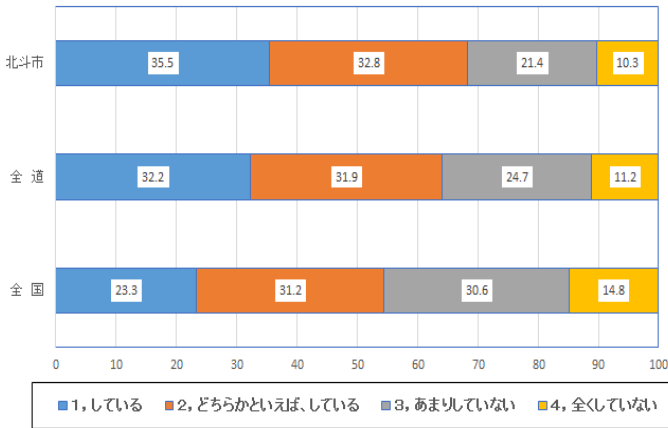


○北斗市では、国語A・B、算数A・B、理科の5教科のすべてで下位層の割合が全国を下回っており、下位層の底上げが図られています。

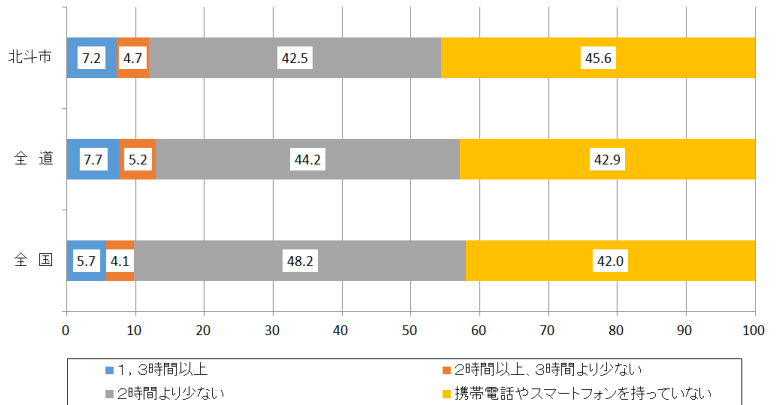
《無解答率の状況》

○国語Bの一つの設問を除き、他の全ての設問で無解答率が全国を下回っています。子どもたちは、最後まであきらめず問題に取り組みようとしています。

家で、学校の授業の復習をしていますか(小学校 %)



普段(月～金曜日)、1日当たりどれぐらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか(小学校 %)



児童に対する調査

○普段(月～金) 携帯電話やスマートフォンで、通話やメール、インターネットを長い時間している児童がおり、課題となっています。  
○家で、学校の宿題をしているなど、家庭学習の習慣が身に付きつつあります。各校における家庭学習の工夫など、より一層家庭学習習慣の定着を図る必要があります。

小学校4校の平均正答率(%)

	国語A	国語B	算数A	算数B	理科
A	70.0	68.2	75.6	43.1	60.7
B	67.9	59.1	68.3	36.9	54.9
C	76.1	71.7	80.5	48.7	62.6
D	80.2	71.4	81.4	42.5	62.0

小学校A

○学力向上の取組について

・「めあて」、「まとめ」、「ふり返し」の授業展開を継続するなど、授業改善に取り組んでいます。

・学年、学級経営を核に学習に集中できる環境づくりを推進しています。

・放課後学習や補充学習などで、基礎基本の定着と個に応じた指導を図っています。

小学校B

○学力向上の取組について

・基本的な学習過程の徹底とノート指導、指導と評価の一体化などで授業改善を図っています。

・放課後サポートによる下位層の底上げを図っています。

・読む力、書く力を伸ばすために、日記、感想文などを取り上げ、家庭学習の工夫を図っています。

小学校C

○学力向上の取組について

・算数科において、まとめのテスト(市販テスト)で平均点の低い単元を「重点単元」と位置付け、指導時数を多く配当しています。

・家庭学習の時間を数値化し、チェックシートを活用して取組の検証、改善を図っています。

・朝学習の内容を放課後学習で補充したり、長期休業中に指導したりするなど、苦手分野の改善を図っています。

小学校D

○学力向上の取組について

・数値目標の達成に向け、進捗状況の把握と評価、改善を図っています。

・生活習慣、家庭学習習慣の改善、充実のために「生活リズムチェックシート」を活用するとともに、家庭に対して啓発を図っています。

・下位層の減少のために、補充学習や繰り返し学習の徹底を図っています。

# 中学校

## 教科に関する調査 《平均正答率》

	国語A	国語B	数学A	数学B	理科	5教科計
北斗市	77.7	70.2	66.0	43.2	55.9	313.0
全道	75.8	65.7	63.0	39.7	53.3	297.5
全国	75.8	65.8	64.4	41.6	53.0	300.6
全道差	1.9	4.5	3.0	3.5	2.6	15.5
全国差	1.9	4.4	1.6	1.6	2.9	12.4

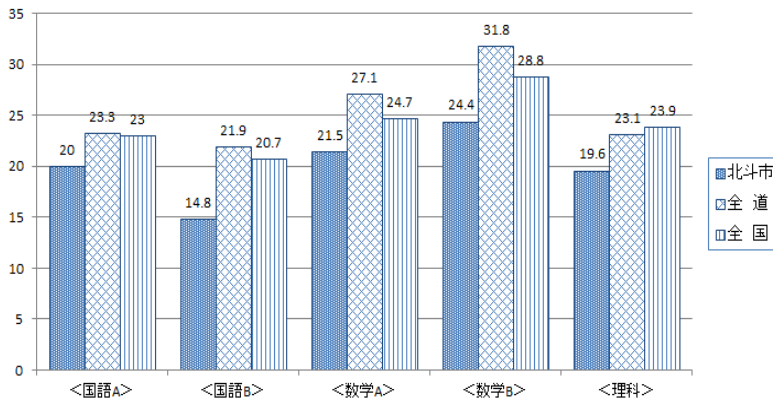
○北斗市では、各教科の平均正答率の合計が全国以上になることを目指しています。中学校では、全ての教科で全国を上回り、目標を達成しています。

○国語Aにおける「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域全てで、全国を上回っています。

○国語Bでも全ての領域で全国を上回っています。

○数学Aにおける「数と式」「図形」、「関数」、「資料の活用」の領域全てで全国を上回っています。

下位層の割合



○数学Bでも全ての領域で全国を上回っています。

○理科では、第1分野（物理的領域・化学的領域）、第2分野（生物的領域・地学的領域）の全てで全国を上回っています。

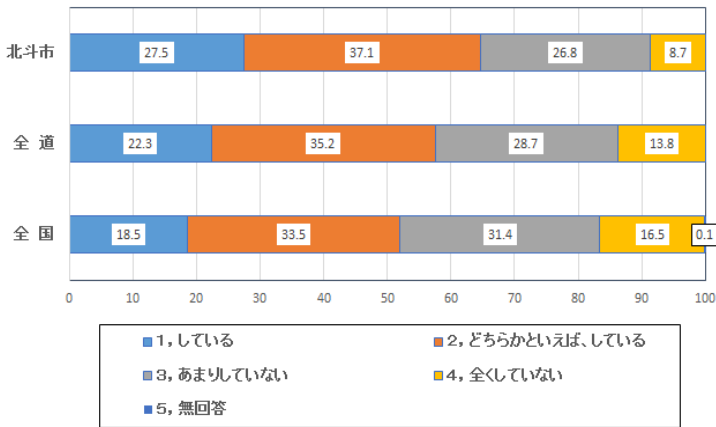
《下位層の状況》

○全ての教科で下位層の割合が全国を下回っており、下位層の底上げが図られています。

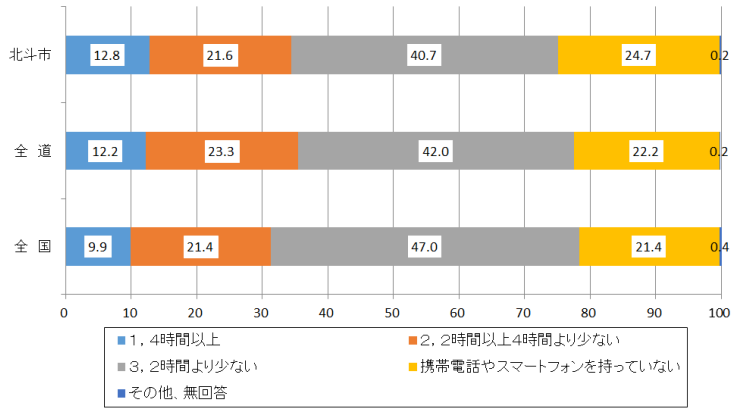
《無解答率の状況》

○全ての設問で全国の無解答率よりも下回っています。子どもたちは最後まであきらめずに一生懸命に問題に取り組もうとしています。

家で、学校の授業の復習をしている（中学校）



普段（月～金曜日）、1日当たりどれぐらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか(中学校) (%)



○学力向上の取組について

- ・学ぶ環境整備に努めるとともに授業改善に取り組んでいます。
- ・毎日1時間以上の家庭学習を定着させる取組を学校、家庭、地域と連携し実施しています。
- ・発展的な内容や基礎的な内容を生徒の習熟度に応じた補充学習や放課後学習をしています。

### 中学校A校

	国語A	国語B	数学A	数学B	理科
A	78.2	73.0	69.8	45.5	57.7
B	77.1	68.4	62.2	42.2	54.2
C	76.9	66.1	61.9	37.8	53.8

生徒に対する質問紙調査

○普段（月～金）携帯電話やスマートフォンで、通話やメール、インターネットを3時間以上している生徒がおよそ4人に1人の割合でいて課題になっています。

○家で学校の宿題をしている生徒が多くなり、家庭学習の習慣が身に付きつつあります。

## 中学校B校

○学力向上の取組について

・数値目標を掲げ、生徒が分かる、できる授業づくりに努め、授業改善を図っています。

・学校改善プランを月毎に確認して検証をするとともに、放課後学習や補充学習などを行い生徒の学力向上を図っています。

・生活リズムを見直し、家庭での学習習慣の定着に努めています。

## 中学校C校

○学力向上の取組について

・授業の始めに目標を示したり、振り返り学習をしたりして、授業改善に努めています。

・下位層の減少と家庭学習ノートの提出率向上を図り、家庭学習の習慣化に努めます。

・放課後学習やテスト前の学習会を実施するなどして、自ら学ぶ習慣の定着を図っています。

## 保護者の皆さまへ

### 学校の下よと取組

◎小学校、中学校ともに5教科合計の平均正答率が全国を上回り、下位層も小・中ともに全国を下回っています。市内各校の取組の成果が表れています。

◎北斗市では、中学校区で小・中を9年間の学びの連続性と捉え、「学習のきまり」や家庭学習の取組など、小学校と中学校で連携した取組を推進しています。

### 子どもたち

◎小学生、中学生ともに必ず宿題をしたり、計画を立てて勉強したりしている割合が多いことなどから家庭学習の習慣が身に付い

てきているといえます。ご家庭におかれましては、子どもたちの家庭学習に気配り、目配りをお願いいたします。

### 家庭へのお願い

◎普段（月～金）、テレビやビデオの視聴時間やテレビゲームの時間、インターネットやメールの時間が3時間をこえる児童生徒がおり、小学校、中学校ともに課題となっています。とりわけ、中学生が「一日4時間以上メールやインターネットをしている」が全国や全道と比較して割合が高いです。

各校では、インターネットやメールのきまりを作成したり、子どもたちに考えさせる活動をしたりするなど、問題解決に向け取り組んでいます。ご家庭におかれましては、朝ごはんをきちんと摂ることや決まった時刻に寝て起きることを含めて、お子さんの家庭生活での過ごし方の見直しや生活リズムの見直しをお願いいたします。

### お知らせ

◎北斗市内小・中学校の結果の状況や学力向上策については、「きらめき」とは、別な視点から北海道教育委員会市町村ページにも掲載されております。